

「夢を叶える子どもお芋や」は、子どもたちがサツマイモの植え付けから収穫、販売、そして売上げから経費を引いて“お給料”の受け取りまでを体験する取組です。吉田公民館主催の事業として、3年目を迎えました。

よくあるサツマイモを育てて食べる“食育”のもっと先、子どもたちが自分の夢に自己投資することを学ぶ、アントレプレナーシップ教育の実践です。



子どもの「やってみたい」を形にする

この取組の中心にあるのは、子どもたちのワクワクです。

「サツマイモをどんな加工品にする?」「どうやったら売れるかな?」そんな素朴な疑問が、自然と“考えて工夫する姿”につながっていきます。作業も販売も、すべてが、自分たちでやるプロセス。そこには、「やらされる」ではなく、「自分たちでつくる」という主体性が育まれます。

こうしたワクワクする経験は、教科書では得られない“生きた学び”です。



アントレプレナーシップのエッセンスが詰まっている

「夢を叶える子どもお芋や」は、アントレプレナーシップの基本要素が組み込まれています。

- ① 自分で考えて行動する
- ② 対話する
- ③ 誰かを幸せにできる新しい価値を生み出す

これは起業家が日々行っている思考そのものであり、子どもたちは楽しみながらその基礎を身につけています。



お金を使うチカラも大事



「夢を叶える子どもお芋や」は、給料を何に使ったかまでを、報告してもらいます。電子決済が増え、今の子ども達へ物質的なお金の価値を伝えることが難しい時代です。

しかし、このプログラムで手にする“お給料”は、ただのお金ではありません。自分の手で生み出した価値であり、努力が形として返ってきた証です。同じ金額でも、おこづかいでもらったお金と、自分で働いたお金の違いを知る。そのお金を「夢を叶えるための自己投資」に使う。

「夢を叶える子どもお芋や」は、サツマイモを育てる学びではなく、子どもたちの中にある、広大な心の畑に、“未来へ伸びていく力”の種をそっと植える活動です。

